

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 88
January
2012

International University of Health and Welfare

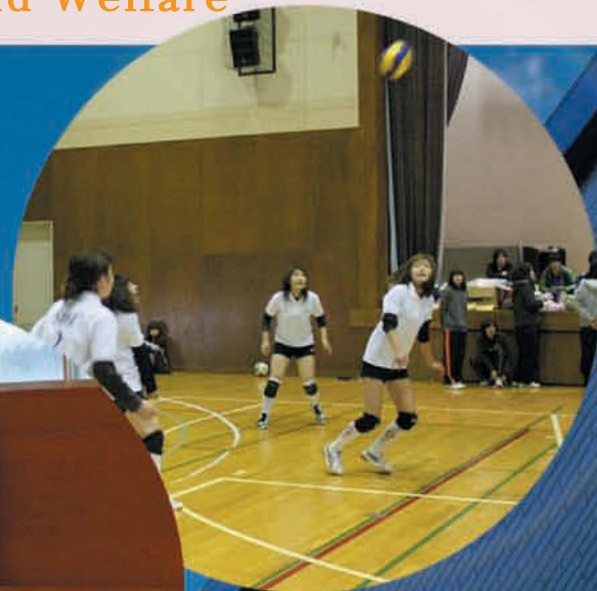
新春のごあいさつ

高木邦格理事長

北島政樹学長・金澤一郎大学院院長

卒業研究発表会

学生&企業研究発表会



国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木邦格



二〇一二年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年は、三月一日に起こった東日本大震災、それに伴う福島原子力発電所の事故によって多くの人が心を痛めた年でした。いまなお、困難を乗り越えようと苦闘しておられる被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

国際医療福祉大学におきましても、大変悲しいことに、学生一名が帰省先の宮城県岩沼市で被災し亡くなりました。将来ある優秀な学生を失った悲しみを胸に、学内を代表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

キャンパスならびに、近隣の附属・関連施設も被災いたしました。しかしながら直後よりグループの総力を結集、大学の教職員に加え、九州・東京・静岡の附属・関連施設からも総勢一〇〇名が現地に入り、震災対応に尽力いたしました。連日、多くの学生ボランティアも加わり、一丸となって復旧につとめた結果、おかげさまで早期の原状回復ができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

なお、未曾有の被害を受けた被災地においては、本グループの高木病院の医師・看護師が福島県いわき市や茨城県高萩市で医療支援を行い、化学療法研究所附属病院のスタッフが岩手県陸前高田市で医療支援を行うなど、グループをあげた医療支援活動にも力を注いでまいりました。本学の学生たちも「災害ボランティアプロジェクトチーム」を自主的に組みました。栃木県の大学近隣の病院や避難所で、復旧作業の手伝いをしたり、福島県から避難していた子供たちの遊び相手になるなど、これまで延べ二〇〇人以上がボランティア活動に従事しています。

さらに、亡くなった学生の出身地である岩沼市ではがれきの撤去作業等を行い、一〇月の学園祭でその岩沼市の野菜を販売、利益を岩沼市に寄付するなど、震災後も継続したボランティア活動を行っています。

こうした学生の取り組みは、本学の基本理念である「共に生きる社会」を体現するものと大変喜ばしく思っております。そうしたなか、日本経済が震災の影響でさらに厳しさを増した昨年度においても、おかげさまで本学は学生一人あたり七四・八人という圧倒的な求人数を誇り、ほぼ一〇〇%の就職率を達成いたしました。二〇〇〇人を超える卒業生の活躍、国家資格試験合格率、教育の質の高さを各方面よりご評価いただいた賜物と、心から感謝しております。

また、本学におきましては昨年九月二、三日に大田原キャンパスにて第一回国際医療福祉大学学会学術大会が開催されました。この学会は、保健・医療・福祉の進歩・啓発・連携を図ることを目的として設立され、学術研究のレベル向上、関連職種間および附属・関連施設の連携、同窓生への卒業教育の場として、今後の更なる発展が期待されています。

附属・関連施設については、国際医療福祉大学三田病院が二月一三日に新病院の竣工を迎えます。すでに東京都認定がん診療病院として、地域医療の貢献に努めてまいりましたが、これまで以上に質の高い医療を提供できるよう、新たに血管外科・心臓外科を開設し、予防医学センターを拡張します。三二〇列マルチスライストCTやPET・CTなど最新の医療機器の配置といった設備面を含め、診

療体制を整備しています。ベトナム・チヨライ病院との遠隔病理画像診断システムの構築も、大いに期待されています。三田新病院は、建物自体が免震構造となっており、地下には七十二時間の自家発電設備を備えています。昨年二月からは、東京都救急告示病院にも認定されており、大災害時には地域の避難施設としての役割も果たすこととなります。

また、本年四月には本学薬学分野で大学院四年制博士課程が設置され、より高度な専門性を持つ薬学のスペシャリストの養成がスタートします。

医学部の設置につきましても、昨年に引き続き、積極的に検討を進めてまいり所存です。

最後に、この一年が皆様にとって良い年であることを祈念しながら、ご挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学学長 北島政樹



二〇一一年は三月十一日の東日本大震災と未曾有の大災害に尽きると思えます。し

かし、本学はその前後に悲喜こもごもの出来事がありました。まずは二〇一〇年ですが、二月七日に初代学長大谷藤郎先生が病氣療養中の折、八六歳で逝去されました。本年一月二日には本学大学院開設以来、常に新風を吹き込まれておられた原成允先生が七四歳で、会議中に急逝されました。その後、前述の東日本大震災は本学大田原キャンパスにも多大な被害をもたらし、教育棟、カフェテリア、及び図書館などに於いてエレベーター離脱、階段崩落、空調機転倒などを引き起こしました。幸い春休み期間中であつた為、キャンパス内での人的被害はありませんでしたが、しかしながら学生は帰省中であつた本学二年生沼田ゆきえさん（医療福祉・マネジメント学

科二年）が津波被害に遭われ帰らぬ人になつてしまいました。このような災害に対して、延べ二〇〇人以上の学生が積極的にボランティア活動に参加し、特に沼田さんの出身地である岩沼市においてめざましい活躍をされたことは今でも記憶に新しく、彼等の活動には敬意を表すると共に誇りに思っております。今回の災害は、特に福島原発破壊を統廃させ、一〇か月経過した現在でも国民の不安は収まりません。このような時代背景の中で本学放射線・情報科学科による放射線量の測定が災害直後から日夜行われたことは云うまでもありません、この放射線測定情報を大田原市と共有するべく四月一六日には「放射線と人体への影響」というタイトルで市民公開講座を開催

したところ九〇〇名の参加があり、多くの参加者が熱心に記録を取っており、情報の共有化に喜びを感じました。

本講座の開催は本学の基本理念の一つである「社会に開かれた大学」として理念実行の一環でもあります。更に九月一九日には四八名のアクティブ・シニアを対象とした「幸齢者スクール」による医療・福祉の実地体験、また昨年引き続き一月二六日には「第二回キッズスクール」を一〇〇名の小中学生を対象に開催いたしました。参加者の中には福島から那須塩原に避難されてこられた小学生もおり、目を輝かせて内視鏡下手術のシミュレーションを行っており、両スクールの参加者全員に握手と共に「修了認定書」を手渡しましたが、

- 特集1 新春のごあいさつ
 - 2 高木邦格 学校法人国際医療福祉大学理事長
 - 3 北島政樹 国際医療福祉大学学長
 - 4 金澤一郎 国際医療福祉大学大学院院長
- 特集2 卒業研究発表会
- 6 特集3 学生&企業研究発表会

- キャンパスレポート
 - 7 第21回 小田原キャンパス
 - 8 第11回 福岡天神キャンパス
 - 9 第25回 大川キャンパス
 - 10 第3回 塩谷看護専門学校

- トピックス
 - 10 遠隔病理・画像診断の実証実験
 - 11 市長と留学生の懇談会／北島政樹学長にハンガリー・センメルワイズ大学名誉医学博士号／第2回「共に生きる社会」めざして高校生作文コンテスト表彰式／第2回キッズスクール
 - 12 言語聴覚学科 第35回日本神経心理学会／視機能療法学科 園児視機能評価実習／医療福祉・マネジメント学科 OB・OG向けセミナー／医療福祉・マネジメント学科 小学生が車イス体験
 - 13 関連職種連携論・連携ワーク発表会／国際室 国際交流親善パーティー／国際室 国際交流「秋の遠足」／国際室 東芝メディカルシステムズ工場見学

- 施設インフォメーション
 - 14 国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学塩谷病院
 - 15 国際医療福祉大学三田病院
 - 16 国際医療福祉大学熱海病院／山王病院／化学療法研究所附属病院
 - 17 高木病院／福岡山王病院／おおたわら風花苑／新宿けやき園
 - 18 卒業生・留学生通信
 - 19 大学院・医療福祉eチャンネル
 - 20 学生投稿ページ

学位記授与式、入学式のお知らせ	
平成23年度 学部並びに大学院学位記授与式	平成24年度 学部並びに大学院入学式
<ul style="list-style-type: none"> ●大田原キャンパス (那須アスリーナ1階) 日時:平成24年3月14日(水) 10:20~ ●小田原キャンパス(6階体育館) 日時:平成24年3月15日(木) 10:20~ ●大川キャンパス (図書館講堂棟3階) 日時:平成24年3月12日(月) 11:00~ 	<ul style="list-style-type: none"> ●大田原キャンパス (那須アスリーナ1階) 日時:平成24年4月3日(火) 10:20~ ●小田原キャンパス(6階体育館) 日時:平成24年4月4日(水) 10:40~ ●福岡天神・大川キャンパス (図書館講堂棟3階) 日時:平成24年4月6日(金) 11:00~
平成23年度 卒業式	平成24年度 入学式
<ul style="list-style-type: none"> ●塩谷看護専門学校(講堂) 日時:平成24年3月6日(火) 10:00~ 	<ul style="list-style-type: none"> ●塩谷看護専門学校(講堂) 日時:平成24年4月4日(水) 10:00~

那須療護園 名称変更のお知らせ

社会福祉法人邦友会が運営する那須療護園の事業移行に伴い、グループ職員に新施設名称を募集し、検討の結果、以下の名称に決定しました。

旧施設名：身体障害者養護施設 那須療護園
 新施設名：障害者支援施設 サポートハウス那須

小中学生と高齢者の違いはありますが、医療・福祉に対する理解と評価は共通のものがあると感じることができました。

さて、今年も毎日新聞社と共催で「第二回『共に生きる社会』」をめざして、高校生作文コンテストを開催し、一月五日に表彰式を行いました。高齢化社会の中で、日本の次世代を担う高校生が実際の生活の中で医療・福祉をどのように捉えているのか大変興味深いところでありました。今回は「医療と福祉、私の体験」「誰かのために、わたしが出来ること」というテーマで募集したところ、昨年の三三三件から本年は一九四三件の多数の応募があり、しかも米国から二件いただきました。今回も自己体験より将来の医療福祉の専門職を明確に示した高校生が多数いて、日本の医療福祉に一筋の光明を見出すことができました。

このような地域貢献と並行して、私が常々考えてきた四キャンパスの統合は教育カリキュラムのみならず、教育・研究面に於いても本学の発展の為に必須条件であります。すなわち、第一回「国際医療福祉大学学会学術大会」が保健医療学部長丸山会長により開催され、二〇九題の演題が四キャンパスと四関連病院から集まり、それぞれの教育・研究の内容を共有することができ、本学の更なる発展の引き金になると確信いたしました。また、本学会の成果に基づいて本学の教育の特色である「関連職種連携教育」が更にレベルアップされることは疑う余地もありません。



国際医療福祉大学大学院院長 金澤一郎

これらの成果の集大成として朝日新聞の調査による国公立大学七五〇校中のランキングでは三三位に位置し、伝統や歴史のみでは評価されないと実感いたしました。

本年も更なる飛躍を遂げるべく皆様のご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。

平成二三年という年は、東日本大震災の年として未永く日本国民の記憶にとどまることと思います。また、この年は前の大学院院長でありました開原成允先生が急逝された年でもあり、私が開原先生のあとの大学院院長をお引き受けした年でもありました。私は、大学院院長をお引き受けする身辺整理も心構え全くもできていなかった中で、関係各位にご迷惑をおかけしました。ここにお詫びします。

2 卒業研究 発表会

看護学科

本学科の「看護研究ゼミ」は、一八週間の臨地実習を乗り越え、看護職者としての動機づけが最も高まった四年次に位置づけられている。看護はあらゆるライフステージの人間の健康問題を対象とするため、学生の関心をもつ研究テーマは幅広い。多くの学生は実習や体験などを手がかりにキーワードを定め、文献検討を重ねることからスタートし、教員の専門にに応じたゼミ形式で研究を進める。その過程で物事を根気強く探求する姿勢や論理的でクリティカルな思考が培われていることを研究計画書に確認できる。また、研究ゼミ、地域・在宅看護学実習、



●ハードな最終学年を支えあう仲間

国家試験対策が重なるハードな最終学年を乗り越え支え合う関係と団結力をも培っていると感じ、発表の場での学生の表情の輝きは、それを如実に表している。

(講師 藤田京子)

言語聴覚学科

一二月一日、卒業研究発表会が行われた。今年度は、事前の口頭審査を経た七グループが発表会に臨み、三・四年生全員が聴講した。

発表された演題は、言語聴覚士が対象とする領域の広さを物語るように、多岐にわたった。わずかに七分の発表であったが、どの発表も一年間の研究の成果を分かりやすく伝えようと工夫しており、立派なものがあった。質疑応答では、四年生を中心に活発な議論が交わされた。その様子を見ていた三年生にとってもよい刺激になったと思う。卒業研究は、研究計画の立案に始まり、実施、結果のまとめ、論文作成に至る一連の過程を学習することに目的がある。その過程は言語聴覚士の臨床思考過程と同様であり、言語聴覚士には研究的な思考能力が必要とされる。そういった意味において、卒業研究は重要であり、一人でも多くの学生が履修することが望ましいと感じた。

(助教 谷合信一)

視機能療法学科

一二月一〇日、五つの研究班から九件の発表があった。三年次後期より自ら研究テーマを設定し、実験計画、予備実験、本実験に取り組み、成果を発表した。三年生を中心に全学年の学生が出席し、基本的な質問や的を射た質問が多数発表された。活発な議論がなされた。

一〇月二九日、一四件の口頭発表と七三件のポスター発表により一年間の研究成果が発表された。いずれも積み重ねてきた努力の成果が現れ、質疑応答では自分の主張、考えをしっかりと伝え、活発な議論がなされていた。



●口頭発表優秀賞受賞者と勝保学科長

本学科の卒業研究発表会は学生主体での実施が伝統であり、準備、設営、司会、座長など、

(助手 大出浩子)



●討論にも熱の入る活発な発表会となった

テーマは、視標呈示に工夫を凝らした視覚誘発電位や、事象関連電位、近赤外線分光法で視覚皮質の学習効果に関する研究など中枢神経系にかかわる研究から、乱視の読書能力に与える影響、瞳孔径がコントラスト感度に与える影響、非接触眼圧計の精度、3D映像視聴が目と与える影響に関する研究など視覚機能検査や様々な負荷が視機能に与える影響について、どの班も研究の醍醐味を味わったことが伺え、卒後の活躍が期待される。

(教授 山田徹人)

放射線・情報科学科

本学薬学部も今年度で完成年次を迎え、六年制になって初めての卒論発表会が行われた。ポスター形式で、各グループに進行役の座長がつき、口頭での発表後、質疑応答をする形式で、五年生以下の学生も発表を聞きに来ていた。学生は、緊張した面持ちだったが、実際に発表が始まると、ディスプレイも盛んに行われ、会場の雰囲気は、さながら学会会場の様だった。これは、各研究室の先生方の研究に向けられる熱意と丁寧な指導はもちろん、学生の素直さ、一生懸命勉強して多くを吸収しようとする姿勢が、実りある卒業研究発表会にしたと実感している。



●5年生以下の学生にも大いに参考になった

薬学科

すべてを学生が手がけた。苦勞もあったと思うが、多くを体得し有意義な経験ができたものと感じている。特に優れた発表として、口頭発表では、椎名文哉、熊川将太・松川諒(共同発表)、ポスター発表では、坂本佳緒里・唐曉昂(共同発表)、南雲伸斗、桑原亮太、沖田綾菜、吉野優人(いずれも敬称略)に発表優秀賞が授与された。

(講師 小池貴久)

特集 3

第八回 学生&企業研究 発表会

一二月三日、宇都宮市のとちぎ産業創造プラザで「学生&企業研究発表会」が開催された。

栃木県内の大学などの高等教育機関では、二三〇〇〇人を超える学生が学んでおり、これらが一堂に会しさらには地域企業も参加して日頃の研究内容などを発表するこの研究発表会は他に例のないユニークなイベントである。

「理工農系」「人文社会経済・芸術系」「医学・医療福祉系」の三分野に分かれ、口頭発表形式で研究成果が発表された。

このうち、医学・医療福祉系分野には、本学（七件）の他、自治医科大学（二件）、作新学院大学（三件）、帝京大学（一件）、小山工業高等専門学校（一件）の一四件がエントリーし、審査の結果、本学は一般表彰の銀賞、特別表彰の栃木県経営者協会賞などを受賞した。

銀賞

風評被害調査を踏まえた地域特産野菜を原材料とする機能性食品づくり

- 薬学部 薬事管理学 分野五年
- 相馬卓実
- 岩崎麻衣
- 塩澤理紗
- 千種祐香
- 鳥井亮太
- 長沢早希
- 前田裕介



栃木県経営者協会賞

がん患者の精神障害に関する基礎研究
慢性疼痛によるストレス適応の形成障害

- 薬学部 薬理学分野 五年
- 片柳香
- 有本嘉宏
- 稲見拓也
- 大山拓也
- 宮本知明
- 村田悠



奨励賞

ストレスがアルコール依存形成に及ぼす影響
行動薬理学的研究

- 薬学部 薬理学 中毒学分野五年
- 加藤達広
- 関根理人
- 新海朋弘
- 杉山大樹



課題指向型リハビリテーションによる脳画像分析
脳活動パターンを改善できるか？

- 保健医療学部 理学療法学科四年
- 星野和佳子
- 伊藤峻
- 加藤龍彦
- 菊地佑太
- 黒岩美緒
- 齋藤友紀子
- 佐川千尋
- 澁谷綾祐
- 白岩彩
- 長尾稔



高齢者転倒予防に対する修正版踵上げ運動の介入効果
Toe-in exerciseはバランス能力を引き出せるか？

- 保健医療学部 理学療法学科四年
- 中村仁美
- 小坂橋由佳
- 小林修
- 小山直輝
- 佐竹芽依
- 杉村未来
- 鈴木貴美子
- 橋祐貴
- 西村勇太



ストレス適応障害に対する新規薬物治療法の検討
選択的5-HT7受容体作動薬の改善効果

- 薬学部 薬理学分野 五年
- 日下春樹
- 加藤裕明
- 岸康弘
- 齋藤美咲
- 村井一輝



オムツ着用下でのトレッドミル歩行における身体的・心理的反応

- 保健医療学部 理学療法学科四年
- 沼井奏、関口綾華、永田知記、渡部慶子

秋の市民公開講座



小田原キャンパスでは、毎年春と秋に市民公開講座を実施している。今回の市民公開講座のテーマは

『もし、大地震が起きたら…!! 災害時における健康管理』

これは、昨年夏に神奈川県主催の「かながわコミュニティカレッジ」（横浜市で開催）に参加した際に好評を博した「保健・医療・福祉分野を中心とした災害ボランティア育成講座」を基に、「災害時の市民の健康管理」という視点で講座を組み直して企画したものである。小田原市は神奈川県西部地震がいつ起きても不思議ではないと言われている土地柄であることから、市民にとって、関心が高い講座であるといえる。

一月二六日（土）、一月四日（土）の二日間で全四講座を実施し、延べ一六六名が受講した。受講された方からは「小田原は東海地震や県西部地震など地震の巣と言われているが、これくらい地震がきても対応できる心構えができた」「今後も地域に役立つ講座を期待する」といった声が聞かれた。

（総務課 高久晃）

小田原駅周辺美化運動を開始

一月二七日（木）より、小田原キャンパスでは学生・教員・職員で小田原駅周辺の美化運動を開始した。

二〇一一年四月一日より実施されたキャンパス敷地内全面禁煙に伴い、小田原キャンパス周辺での学生の路上喫煙や吸い殻のポイ捨てなど



●1周1kmのコースに出る学生たち

通学路の美化マナーを損なう可能性が心配されていた。また、キャンパス周辺地域が小田原市の環境美化促進重点地区に指定されており、市条例で大学周辺での路上喫煙が禁止されているが、時々吸い殻が見られた。そこで一般市民にもこの周辺が美化促進重点地区であることを知ってもらうため、また、本学部の学生がマナー違反をしないよう意識の向上と再確認のため、この美化運動を始めた。

美化運動実施の掲示をみると、講義の時間の空いている学生が美化運動に参加した。コースは小田原キャンパスをスタートして、小田原駅西口まで行き、帰りは別のルートを清掃して帰ってくる。距離としては往復で一キロにも満たないコース。普段は意識



●見えないところにゴミがたくさん!!

第六回スポーツ大会

しない歩いていて道すがら、美化運動を実施すると、植え込みの中などに多くのタバコの吸い殻、空き缶、空きビンなどが捨てられていることに気付いた。今後毎月一回のペースで、美化運動を実施していく。（学務課 下田岳史）

一月二六日（土）、小田原市立城山中学校のグラウンドを借りして、第六回スポーツ大会が開催された。

一月中旬から本格的な冬の陽気になったものの、当日は眩しいほどの太陽の光が降り注ぐ中での開催となった。

午前10時の開



●「なんでもりレー」のひとつ。パンも飴も、味わっている暇がありません

会式では、杉原学部長の挨拶の後、理学療法学科二年生による準備体操・ストレッチで大会の幕が開いた。各学科・各学年で六チーム編成。チーム対抗の競技は、追っかけ玉入れ、しっぽ取り、なんでもりレー、サッカー、選抜りレーの順に行われた。できるだけたくさんの方が参加できるようにと玉入れ

ト戦でどのチームも二回以上試合ができるよう工夫した対戦となった。潮風祭終了直後から実行委員会を中心に準備を進めてきたスポーツ大会は、けが人もなく、無事幕を閉じた。

学内では体育館でしか運動のできない学生達は屋外でのびのびと躍動し、キャンパス内とはひと味もふた味も違って見えた。また、自分のチームを応援するだけでなく、他学年を応援する姿、最後にゴールするチームを拍手で迎える姿、勝ったチームを讃える姿の爽やかさが印象的だった。

（学務課 佐藤浩子）

- 総合優勝 理学療法学科二年チーム
- 総合二位 理学療法学科一年チーム
- 総合三位 作業療法学科一年チーム



●総合3位の作業療法学科1年生。先生と一緒に頑張りました!

第11回

Fukuoka Tenjū
福岡天神
キャンパスレポート

福岡看護学部は、文部科学省採択事業である「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」に関わっている。これは、九州・沖縄の看護系大学一三大学が連携し、課題解決のための取り組みを共同で開発・実践する大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム事業である。



●学生の視点で体験学習の企画を練る

ここでは、看護系大学教員の教育力の向上・効果、卒業一年目看護師の支援や看護系大学入学者に対する学力の強化など七つの課題から、以下の三つの主な取り組みが行われている。

- ①ケアリングFD&CSD：大学教員および臨地実習指導者の教育力の開発等
- ②卒業リメディアル・サポート：卒業一年目看護師を対象にしたサポート等
- ③学生を核とするケアリング・コンソーシアム構築：学生フォーラムなど相互学習の場の形成や理系科目の補強教育等

本学部では、理系科目補強教育として、高校生を対象に人体や看護への興味・理解を深める目的で「人の身体を知ろう！」をテーマに、発見学習の手法を用いた体験学習を開催した。この体験学習は、企画を本学部の三年生が行い、安藤敬子講師が学生をサポート、中山晃志講師と姫野が運営という連携で実現した。

体験学習の内容は、

- ①脳の重さや肺の柔らかさは？
- ②肺と心臓の位置はどうなってる？
- ③人間の血液の量はどれくらい？
- ④点滴を合わせてみよう！
- ⑤聴診器を使ってみよう！（フィジカルアセスメントシミュレーターモデルを使用した）



●試行錯誤の連続で力をつけてきた1期生

これらの内容は、「脳の重さを実際の味噌で測ってもらう」「肺と心臓は生きていく上でとても大切な臓器だから絵を描いてもらう。模型もあるとわかりやすよね！」というように、学生の豊かな創造力やユニークな視点から生まれたものである。会場の設営、物品の手配、そして高校生や参加者をナビゲーションするの学生の役目である。写真の通り、学

生が高校生に分かりやすく説明し、高校生ができるように解を導いている。その姿に、学生の三年間の学びと学んできた姿勢の有り様をととても強く感じた。本学部は、まだ完成年度を迎えておらず、三年生が最上級生になる。だから、モデルとなる先輩がいない。学生は、自らの考えや行動を持って、いろいろな状況や困難に遭遇してもチームワークで乗り越え、本学部のパイオニアとして後輩を牽引してきたのだろう。これらは、決して座学では見えない、学生の成長の証だと思ふ。

●高校生に学習の楽しさを伝える

後日談だが、体験学習に参加した高校生が本学を受験し、「学生さんが、丁寧に教えてくれて、とても楽しかった。ここなら楽しく勉強できると思い受験しました」という感想をいただいた。



●参加者から受験生も生まれ、実りあるイベントになった

この体験学習は、本学部のオープンキャンパス、学園祭と同時開催されていたため、高校生だけでなく本学部在籍の保護者など高校生以外の参加もあった。そのため、プチ健康教育やミニ受験相談などたいへんバラエティに富んだものとなった。そのなかで、参加した人々は「人の身体ってすごいねっ！」「こんなこと学べるんだ」と感動しながら各ブースを楽し

●参加者が楽しんでいる手応えを感じた

企画・運営した三年生、そしてアシストしてくれた二年生のみならず、ありがとうございました。そして、オープンキャンパスと学園祭の同時開催のため協力頂いた広報をはじめ教職員の方々にも厚く御礼申し上げます。
(講師 姫野深雪)

第25回

Okawa
大川
キャンパスレポート



韓国・建陽(コニヤン)大学から来日!

二月一九日、韓国の建陽大学(コニヤン大学・大田市)より、物理治療学科一三名、看護学科一九名の学生、及び引率教員の方々が来日した。福岡リハビリテーション学部では約一〇日間、物理治療学科の学生を迎え、研修を実施した。この研修の狙いは、同じリハビリテーションや看護を学ぶ韓国の学生の皆さんに、日本のリハビリテーション現場の見学、日本と韓国の医療現場の相違点などを学んでもらうことである。



●韓国からの研修生一行

来日初日は、入国した博多港から直行された建陽大学の学生及び先生方を宿泊地の「シーサイドホテル ツイン

ズももち」にて歓迎会でもてなした。さつそく翌日から、大川キャンパスと福岡天神キャンパスに分かれ、研修がスタートした。大川キャンパスでは研修期間中、日本の医療福祉や理学療法についての特別講義などを行い、基礎を学んでもらった。また、高木病院や柳川リハビリテーション病院をはじめとする本グループの各施設の見学では、日本の医療現場を実際に見て理解を深めても



●日本食の調理体験もあった交流会

一方、本学の学生達は、たこ焼きやお好み焼きなどの日本食を作ったり、和服を着てもらったり、一緒にゲームで遊んだり、同じ志を持つ韓国の学生達と心ゆくまで交流した。帰国前日は、修了式が行われ、福岡リハビリテーション学部・金出学部長から建陽大学の学生の皆さんに、一人ひとりに修了書が手渡された。なお、一月中旬からは、今回来日された建陽大学作業治療学科として仁済大学(インジェ大学) 物理治療学科及び作業治療学科の学生の皆さんをお迎えし、約二週間の研修が始まった。

軟式野球部

第10回 夫婦石病院杯
リハビリテーション養成校
野球大会で優勝!!

福岡リハビリテーション学部軟式野球部が、二月二七日、二月一二日に開催された、第一〇回夫婦石病院杯リハビリテーション養成校野球大会に出場し、第七回大会以来三度目の優勝を果たした。大会一日目は、予選リーグを危なげなく勝ち上がり、決勝トーナメントへの出場を決めた。大会二日目は、予選リーグを突破した四チームに加え、主催の夫婦石病院をはじめとする四病院が参加し、八チームによる決勝トーナメントが行われた。



●見事に昨年の雪辱を晴らした優勝メンバー

しかし、これで終わったわけではない。今年度は、秋の西日本学生軟式野球選抜大会では一回戦で惜敗し、涙をのんだこつぶくナイン。春の全国大会出場を目指し、勉強の合間を縫って練習に励む軟式野球部のさらなる活躍を期待されている。



●昨秋の西日本大会の時の1コマ

第10回

夫婦石病院杯リハビリテーション養成校
野球大会対戦成績

予選リーグ

- 3-0 小倉リハビリテーション学院
- 10-1 福岡和白リハビリテーション学院

決勝トーナメント

●一回戦

6-3 夫婦石病院

●準決勝

2-1(タイブレーク) 帝京大学

●決勝

2-1(タイブレーク) 甘木中央病院

(広報室 望月秀樹)



市長と留学生の懇談会

一〇月二八日、大田原市内において、毎年恒例の大田原市長と留学生の懇談会が開催され、大田原市長から津久井市長、佐藤秘書係長、齋藤広報公聴係長が出席。本学からは留学生五名（一年生三名、二年生二名）と学生課長が参加した。

会食後の懇談会で市長は、故郷を遠く離れて勉学に励む留学生を労うとともに、大田原で良い思い出を沢山作り、外交官になったつもりでそれぞれの出身国に伝え友好関係の架け橋になって貰いたいとのメッセージを伝えた。留学生は日頃の配慮に感謝するとともに、市営住宅の整備などを要望し、市長から出来るだけ対処するとの回答を頂いた。

大田原市は本学の開学以来、市内在住の留学生に、市営バスの無料パスを発行するほか、市営住宅への格安料金での入居、毎月一万円の奨学金支給（一・二年生）等の優遇措置を実施している。

（学生課 高石和秀）



●津久井市長を囲む留学生

北島政樹学長にハンガリー・センメルweis大学名誉医学博士号

一月一日、北島政樹学長はセンメルweis大学の名誉医学博士号(Doctor Honoris Causa)授与式に出席した。同大学は首都ブダペストに位置し、一七六九年ハプスブルク家のマリアレジア女帝が帝国の医療施設の集約を図って設立したハンガリーで最も歴史の古い医科大学。一九六九年に創立二〇〇年を記念して、産褥熱の原因を究明し消毒法の先駆者と称えられるハンガリーの産科医、イグナツ・センメルweisの名に因み、大学名を旧ベスト大学からセンメルweis大学に改称した。現在、六二カ国、一一〇〇人の学生を擁し、教育、研究、医療ケアにおけるヨーロッパの先進的な医療活動拠点の一つと評されている。

同博士号は、国際的に優れた医学分野での功績と長年にわたる同大学との交誼に敬意を表して授与される最高学位で、北島学長の外科領域における数々の傑出した業績とともに、日本ハンガリー外科学会創設およびハンガリーアカデミーへの尽力やハンガリー共和国騎士勲章の受章（二〇〇七年）等、両国の医療協力に対する多大な貢献を賞して贈られた。

（東京事務所広報室 今井繁）



●センメルweis・サロンで行われた授与式



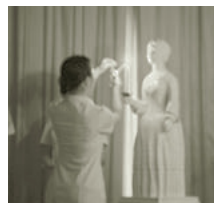
「看護の誓いの式」の言葉で宣誓を暗唱していたが、昨年度から「ナイチンゲール誓詞」を復活させている。実習関連施設の看護部長様をはじめ多くの来賓

看護の誓いの式

二月八日、「看護の誓いの式」が厳かに挙行された。これは「看護の心」を伝承する式でもあり、六回生四三名による「ナイチンゲール誓詞」の斉唱とキャンドルの光が会場を包み込んだ。

私の時代は「戴帽式」と呼ばれたナイスキュープの授与式であった。ナイスキュープ廃止の流れとともに、式典をやめてしまった学校も少なくないが、本学は、三年課程の開始にあたり、「看護の誓いの式」という形で、一年生が初めての実習に出る直前のこの時期に毎年実施している。それまでは、学生たちが自分たちの言葉で宣誓を暗唱していたが、昨年度から「ナイチンゲール誓詞」を復活させている。実習関連施設の看護部長様をはじめ多くの来賓

第3回 Shioya 塩谷 看護専門学校 キャンパスレポート



の出席を得て、在校生と保護者が見守るなか、看護師への決意を新たにしたい学生の姿が眩しくもたくましく思える。

特別講演 「災害時におけるチーム医療の実践」

同じ日に、特別講演が実施され、今年度はグループ施設の四名の講師に三月一日の対応を含めてお話しいただいた。実体験に基づく話は、「明日は我が身」と心引き締まる内容であった。保護者や来賓も聴講し、関心の高さを示している。

災害時の対応は、全て日ごろの職務の延長線上にあり、特別ではなく当たり前に判断し、行動することなのだ、改めて、日々大切さを考えさせられた。

そして、講師である看護職の凛々しくもたくましい姿に、卒業を控えた三年生、机上の学習をほぼ終了し実習漬けになる二年生、初めての実習に出る一年生、それぞれが一步を踏み出すこの時期に、有意義な一日となったことを感謝したい。

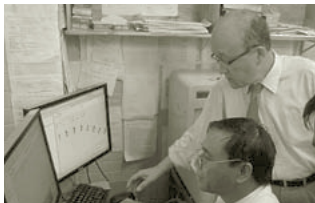
（教務部 豊口妙子）

遠隔病理・画像診断の実証実験

経済産業省平成二三年度「日本の医療サービスの海外展開に関する調査事業」にかかわる委託事業として、本学が中心となり医療機器メーカー四社（サクラファインテックジャパン、浜松ホトニクス、パナソニックシステムソリューションズジャパン、東芝メディカルシステムズ）と「国際遠隔診断構築コンソーシアム」を組織している。

一〇月、ベトナム・ホーチミン市にある南ベトナム最大の基幹病院、チョーライ病院と三田病院を光ファイバーでつなぎ、遠隔病理・画像診断の実証実験を実施し、その妥当性および事業性についての検討を行った。三田病院から病理診断センター・長村教授と放射線診断センター・縄野教授が実験に参加した。

調査団は一〇月二九日にホーチミン市に入り、三〇日には実地調査を控えた企業を交えてのコンソーシアム調査団打合せを行った。三一日、一月一日、チョーライ病院に設置した浜松ホトニクスのパーチャルマイクロスコ



●ベトナム・チョーライ病院で実験中の長村先生とトシ先生

プ「Nanozoomer」を用いてデジタル化した病理画像をサーバーに保存し、三田病院からパナソニックが接続したネットワークを使用してモニター上で観察・診断した。また、三田病院でデジタル化しサーバーに保存した病理画像をチョーライ病院で診断した。症例としては極端に偏らない生検、手術例を使用した画像診断では、放射線画像を三田病院に送信して三田病院のサーバーに保存して診断した。どちらも診断結果は英語で記載してチョーライ病院に送信した。二日は長村教授が三田病院に戻り、チョーライ病院病理診断部長・トシ先生とコンサルテーションなどのシミュレーションを行った。

また、同様の実証実験を二月一九・二〇日、中国・北京市のリハビリテーション研究センターでも実施した。これらの実証実験で、技術的には遠隔病理画像診断が可能であることが確認されたが、事業性の検討には、機器の設置、ランニングコスト、ニーズなどの複数因子を詳細に調査する必要があるものと思われた。

（東京事務所秘書室 浅見あゆみ）



●北京市リハビリテーションセンターにて遠隔診断中の長村先生（右端画面は三田病院の森先生）

第二回

「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト表彰式

本コンテストは、高校生に医療や福祉の体験、感動を伝えてもらうという趣旨で、昨年より毎日新聞社と共催で開催している。自分自身や家族、友人の病気やけがを通して医療・福祉の仕事をめざすという作品や、東日本大震災をきっかけに、今、自分たちができることに真剣に取り組んでいるという作品など、昨年を大きく上回る一九四三作品が寄せられ、最優秀賞一点、優秀賞二点、佳作二点、入選五作品、学校賞九校が選出された。

一月五日、最優秀賞、優秀賞、佳作を受賞した高校生と関係者、学校賞受賞の先生をご招待し、大田原キャンパスで表彰式が行われた。各賞の表彰に続き、最優秀賞・優秀賞受賞者による朗読が行われ、家族を思う温かい気持ちや、重度の障害を持ちながら、これからの福祉のあり方を提唱する内容に会場の在校生も熱心に聞き入った。この五名の高校生は三月、本学提携機関の中国リハビリテーション研究センター等を訪ねる六日間の中国ツアーに出席する予定である。

（東京事務所広報室 東條かおる）



●緊張の表彰式を終えた受賞者のみなさん

第二回 Kids School キッズスクール

一月二六日、大田原キャンパスでキッズスクールを開催した。将来の医療福祉を支える小中学生に、早くから医療福祉に対する理解を深めてもらうことを目的とし、今年は内容もさらに充実した。

■HJL小学生コース（四〇名）
患者・利用者側の体験を通して、体のしくみや働きを学ぶ。①からだの反射を体験しよう ②音のない世界を体験しよう ③白内障・緑内障体験 ④トロミ食体験 ⑤メデイカルイングリッシュ体験

■HJL中学生コース（六〇名）
従事者側の体験を通して、様々な職業を学ぶ。①エコーで調べてみよう ②患者の体に異常があるか判断しよう ③指の器具を作ろう ④カルテから学ぶ診療報酬 ⑤薬剤師の仕事にチャレンジ

この他、内視鏡シミュレーターや介助犬・盲導犬、福祉車両に触れた受講生には、最後に北島学長から一人ひとりにHJL（ヘルスケア・ジュニア・リーダー）認定証が授与された。

（東京事務所広報室 金井雅之）



●モデル人形を使いフィジカルアセスメントを体験する中学生

言語聴覚学科

第35回 日本神経心理学会

九月一五日・一六日、宇都宮の栃木県総合文化センターにて、「第三五回日本神経心理学会」が開催され、大学院医療福祉学研究所保健医療学専攻主任藤田郁代教授が大会長を務めた。

「神経心理学」はこころと脳の関係、すなわち、言語、記憶、行為、認知といった高次精神活動と脳の神経機構との関係を研究する科学である。学術集会では、藤田先



懇親会にて。(左から)北島学長、藤田学会長、河村日本神経心理学会理事長

生の会長講演「失語症の言語治療におけるパラダイムシフト」の他、城間将江教授(言語聴覚学科)、武田克彦教授(三田病院神経内科)、加藤宏之教授、橋本律夫教授(国際医療福祉大学病院神経内科)、小森規代先生(国際医療福祉大学病院リハビリテーション科)など本学からも多くの先生方が最新の研究成果を発表、講演した。当日は、卒業生も大勢参加し、予想をはるかに超える参加者で活発な討議がなされ、「こころと脳の関係」について新たな地平を拓く契機になったと感じた。

(助教 埴瑞穂)

関連職種連携論・連携ワークショップ発表会

「関連職種連携論・連携ワークショップ」とは、テュートリアル方式の問題解決型学習である。この講義は、二年生を主体とした学科横断の少人数グループを編成し、関連施設の医師から提供された事例を通して、チーム医療・ケアに関する問題発見から、解決方法と連携のあり方について討議する。



●最優秀賞の表彰を受けた8班84グループ

今回、この講義は九九九人の学生が受講し、八〇グループに分かれて学習した。それらのグループは、一グループに一人のチューター教員配置なので、都合八〇人の教員がこの授業の指導に当たった。そして、その学習成果を理論化してまとめ、発表する場が、関連職種連携論・連携ワークショップである。この発表会に出席した学生たちは、「関連職種連携論・連携ワークショップ」を通じて、他職種の専門性と役割を理解すると共に、自らの専門性と役割を相手にわかりやすく説明し、情報共有のあり方、対象者のニーズに適合した目標設定のあり方、それをめぐる連携のあり方、などについて討議することが求められた。実際には、専門的知識・

視機能療法学科

園児視機能評価実習

臨床での即戦力をつける目的で毎年行っている園児視機能評価実習。今年も大田原市内の保育園と幼稚園、計三施設のご協力のもと実施した。



●学生自身で準備・実行・フィードバックが行われる

臨牀での即戦力をつける目的で毎年行っている園児視機能評価実習。今年も大田原市内の保育園と幼稚園、計三施設のご協力のもと実施した。四、五歳の園児を対象に視機能を評価したのは二回の臨地実習を終えてひと回り遅く成長を遂げた四年生四七名。この実習は当日のみでなく準備段階から重要で、どんな検査を行うか、園内の限られたスペースでの配置をどうするかなど、全て学生が計画を立てて実行する。終了後反省会を開き、その反省を活かした次の施設では徐々にスムーズな流れで進行するのを実感した。また、園児との触れ合いが不慣れた学生も、経験を重ねるにつれ和やかに接している様子がみられた。視能訓練士は斜視や弱視などの子供と関わることが多く、有意義な実践の実習だったと思う。

(技術助手 門馬愛美)

医療福祉・マネジメント学科

OB・OG向けセミナー

医療福祉・マネジメント学科は、大学同窓会「マロニエ会・医療経営管理学科会」と共催し、大田原キャンパスで三つの「卒業生向けセミナー」を開催した。

①九月三日、大学学会の学科別企画「目指せ 医事課のプロ」。大西正利准教授、田中千絵講師、降旗光太郎講師が、病院医事課の主要業務である診療報酬請求(レセプト)のチェックポイントをレクチャーした。模擬カルテを用いた演習では、レセプト点検時の病名修正などを行った。②九月二四日、「第一五回医療経営戦略セミナー」。本学大学院の高橋泰教授が、二次医療圏データベースを活用した病院経営戦略を解説した。



●講演する中村雅彦先生

③一二月一〇日、「医事事務作業補助業務の導入とスキルアップ」。実務分野の第一人者である中村雅彦先生(松本市立波田総合病院副院長)が、医師事務作業補助者の現状と今後の課題などを講演した。三つのセミナーには、延べ二五〇人以上の卒業生、実習病院のご関係者、在校生、大学教職員が参加。多くの卒業生参加者が「実務に活かされた。継続してほしい」と感想を述べた。

(助手 滝澤雅美)

小学生が車イス体験

医療福祉・マネジメント学科介護福祉コースは、一二月六日、大田原市立西原小学校四年生を招いて車イスの操作方法などについて体験学習を行った。これは西原小学校が「ともに生きる」高齢者、障害者とともに「を」をテーマとした福祉学習の一環として毎年行っているもので、本年度も児童四〇人(引率教員四人)が来校した。



●地元の小学生と「共に生きる社会」をめざす

晴天に恵まれ、野外で介護福祉コースの教員および補佐役の三年生が車椅子の操作方法等の説明を行った後、安全確保の見守りをする中、児童が車イスの体験を行った。自分で操作するだけでなく、ペアを組んで車イスを押す側と押ししてもらったの両方を体験し、「思ったより振動がすごかった」「急に動き出すとびっくりした」「坂を上るのは大変だった」等、素直な感想を口にしました。「今後、どこかで車イスの人に会ったらお手伝いしてあげたい」という声も出るなど、本学の「共に生きる」という理念を地元の小学生とも共有できた有意義な時間であった。

(介護福祉コース主任 絹木憲司)

国際室

国際交流親善パーティー

技術の修得があまり進んでいない二年生にとって高いハードルであったことと思う。しかしながら、未知のことを主体的に学び、他学科の学生と情報を共有して問題を解決していった経験は必ず将来の臨床現場で役立つものとなるはずである。

(教務委員長 荻原喜茂)

一二月六日、大田原キャンパスで、本年度の「国際交流親善パーティー」が開催された。大田原・東京青山両キャンパスの留学生、日本人学生、来賓など総勢一〇九名が出席した。大田原市総合政策部長・三浦修二様、大田原国際交流会会長・後藤秀雄様、アジア学院・パンヒョンウク様からご挨拶いただき、本学の国際交流・留学生育成における地元の温かいご支援に感謝の念を新たにした。



●kimonoを着た留学生

交響楽部によるクリスマスソングの演奏をバックに、韓国人・中国人留学生による韓国料理の調理実演、インドネシア留学生による民族楽器紹介、茶道部によるお点前、日本人学生による着付け実演が披露され、最後に日本語・英語・韓国語で「ジングルベル」を合唱した。(18ページに関連記事)

国際交流「秋の遠足」

一二月六日、国際室主催の国際交流「秋の遠足」が開催された。今年度は東京の浅草寺を中心とした企画で、JICA研修中の中国人八名、大田原国際交流会四名など総勢六二名が集まり、過去最大規模であった。



●浅草神社の前で記念撮影

隅田川べりを散策し、建設中の東京スカイツリーやアサヒビール「炎のオブジェ」を眺めた。浅草寺では常香炉の煙を浴び、おみくじを引き、参拝。さらには、宝蔵門の大わらじに驚嘆し、雷門の風神像・雷神像、大提灯の豪快な姿に感動。仲見世でお土産を買ったり、食べ歩いたり、子ども歌舞伎に見入ったり：東京の寺院文化の一端に触れることができた。

最後は日の出橋まで四〇分間の隅田川下り。数々の橋の名前と歴史等を聞きながら、増水のため橋の下をスレスレで通り抜ける珍しい体験も。新旧混ざり合う東京の魅力を感じる良い機会になった。(国際室 森島公美)

東芝メディカルシステムズ工場見学

一二月一六日、大田原市にある大手医療機器メーカー、東芝メディカルシステムズ株式会社の工場見学会が行われ、留学生一名と教職員四名が参加した。ビデオレターにより綱川社長から経営スローガン「Made For Life」に込めた「医療を通じて社会に貢献する」という社会的使命を紹介されたあと、MRIやCT等の製造工程を見学すると、これらはまさに、患者の立場に立ち医師のニーズに応える「Made For Life」が具現された医療機器群であった。



●迎えていただいた社員の皆様の心遣いに感謝

見学後の懇親会では、外国籍や国際関連部門の職員の方々と仕事内容やその魅力について懇談する機会をいただいた。留学生には国際的な医療人として活躍する自覚形成になったのではないだろうか。最後に記念品として「風呂敷」がプレゼントされ、その場で使い方が実演された。日本文化の一端を紹介する心遣いにも同社の国際性を強く感じた。貴重な機会をくださった皆様のご厚意に改めて謝意を申し上げます。(国際室 田中浩子)

附属病院

国際医療福祉大学病院

絆 みんなの力が患者様と病院を救った

二月二十七日、本院五階講堂で、東日本大震災を振り返った。

会場の壁には、当時の写真を展示し、改めて自然の猛威を痛感。その後、マロニエ苑大内真奈美副看護部長の「大震災を乗り越えて」結集したグループの大きな力、A棟西四階病棟佐藤尚子副看護主任の「東日本大震災時の看護の底力」、医療安全管理室八木沢幸恵看護主任の「震災時の医療安全」の講演の中で活躍するヒーローたち」の講演で当時の職員の活躍を振り返った。



●講演する八木沢主任

職員たちは医療人として患者様・病院を救いたいと切に願った状況を思い出し、当時の苦労話を交えて互いに讃えあつた。冒頭の挨拶で蘇原院長は、「当時の被災状況を考えると、こんなにもスムーズに病院を立ち直すことができたのは、ひとえに職員一人ひとりの努力の賜物」と述べた。本院と本院患者様を救ったのは、まさしく、職員自身であることを再確認すると共に、本年が幸せな一年となることを願いつつ閉幕した。



●写真を前に当時を振り返る

第三回外科手術体験セミナー

一月七日、「外科手術体験セミナー」を開催した。今年が三回目。栃木県内から中学一〜三年生三〇名と中教諭三名が集まった。手術室では六グループに分かれて手術の施行を体験した。

- ① 超音波メスによる模擬手術体験 (マネキンの腹にのせた鶏肉を切開)
- ② 内視鏡外科手術体験 (鉗子による把持・移動・クリッピング、内視鏡外科手術シミュレーターによる模擬手術・トレーニング体験)
- ③ 自動吻合・縫合器体験 (模擬臓器に自動縫合器をファイヤー)
- ④ スーチャーリング体験 (切開された鶏肉を縫合、模擬皮膚縫合、糸結び練習)
- ⑤ 救急医療体験 (マネキンを使い気管内挿管など)
- ⑥ 内視鏡体験 (人体モデルを使い、上部消化管及び大腸内視鏡を施行)



●超音波メスで鶏肉を切開



●救急医療の気管内挿管

最後に、蘇原院長から一人ひとりに修了証が授与され、将来の医師たちを激励した。地元テレビ局や新聞社の取材も多数入り、話題発信にも大きく貢献した。(総務企画課 神山哲哉)

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

二月一三日より、新病院での診療が開始



国際医療福祉大学三田病院は、七〇有余年の歴史を持つ日本たばこ産業株式会社 東京専売病院を、平成一七年に大学附属病院として承継して以来、地域密着型の病院としてはもとより、全国から多くの患者様が集まる病院として診療を行ってまいりました。また、附属病院として、多くの国際医療福祉大学の学生の臨床実習も受け入れてまいりました。

これまで建物の老朽化が著しく、ご不便をおかけしながら診療を続けてまいりましたが、約二年半の工事期間を経て新病院が竣工し、平成二四年二月一三日に開設の運びとなりました。新病院での診療開始に先がけ、一月五日には地域の方々を対象とした見学会を開催いたします。新病院は、延べ床面積で現在の約二倍となり、地上二階建てで公開空地や屋上庭園を設けるなど環境にも配慮しながら、快適に療養いただけるアメニティをご用意し患者様をお迎えいたします。診療面においては、東京都認定がん診療病院、東京都救急告示病院として、その機能をより一層充実させるとともに、既存の脊椎脊髄センターや頭頸部腫瘍センター、乳腺センター、呼吸器センター、外科・消化器センターをはじめ、内科と外科が揃い循環器分野が充実した心臓血管センターなど、専門性に基づく高度な医療を引き続きご提供していく予定です。設備面においても、3・0テスラMRI、PET・CT、デジタルマンモグラフィ、リニアックをはじめ、新病院開設を機に導入する港区では唯一の320列マルチスライスCTなど、最新医療機器を整備いたします。他部門と独立した専用エリアを設けた予防医学センターでは、これら最高水準の医療機器を駆使し、きめ細かい人間ドックを、落ち着いた雰囲気の中で受診いただけます。

七階〜一〇階の病室は、個室、多床室(三人・四人部屋)ともゆつたりとしたスペースを確保し、快適な療養環境を整えています。

ら、快適に療養いただけるアメニティをご用意し患者様をお迎えいたします。診療面においては、東京都認定がん診療病院、東京都救急告示病院として、その機能をより一層充実させるとともに、既存の脊椎脊髄センターや頭頸部腫瘍センター、乳腺センター、呼吸器センター、外科・消化器センターをはじめ、内科と外科が揃い循環器分野が充実した心臓血管センターなど、専門性に基づく高度な医療を引き続きご提供していく予定です。設備面においても、3・0テスラMRI、PET・CT、デジタルマンモグラフィ、リニアックをはじめ、新病院開設を機に導入する港区では唯一の320列マルチスライスCTなど、最新医療機器を整備いたします。他部門と独立した専用エリアを設けた予防医学センターでは、これら最高水準の医療機器を駆使し、きめ細かい人間ドックを、落ち着いた雰囲気の中で受診いただけます。



●外来(2F心臓血管センター)

七階〜一〇階の病室は、個室、多床室(三人・四人部屋)ともゆつたりとしたスペースを確保し、快適な療養環境を整えています。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

「護身術」講習会

一月一四日、生活安全週間における啓蒙活動の一環として、矢板警察署にご尽力いただき、護身術の講習会を開催した。関心の高さを表して、終業後にも関わらず約八〇名の職員が参加。思いのほか男性職員の出席も多く、大人数での講習会となった。



●警察署員による実践的な講習となった

「腕をつかまれたとき・服をつかまれた時に相手の手を振りほどく方法」といった一般的な講義からは始まり、ケーススタディとして、

- ① 病棟入院患者にベッドサイドで身体に触られた際の対処方法
- ② 夜間、後ろから抱きつかれた際の対処方法

などを二人一組でポイントを教えた。初は、そのようなケースに遭遇することがないことから、実技研修もぎこちない様子だったが、人間の急所のアドバイス、身近な道具を使つての対処方法を教わるなど、警察署の方のユニークな指導により笑いもこぼれ、楽しく有意義な研修となった。この研修を実際に生かす場面に遭遇しないことがベ

ストであるが、学術的な講習会とは一風変わった実用的なものとなった。

職員旅行 IN 仙台

一月一三日から三日に分けて、一泊二日で震災復興の願いを込め、仙台・松島方面へ職員旅行を実施した。承継後初めての職員旅行であり、西那須野地区の国福病院、マロニエ苑、栃の実荘や大田原地区のなす療護園との合同開催、三班総勢七九名の参加となった。全般的に好天に恵まれ、楽しい旅行となった。特に瑞宝殿では、紅葉がちょうど見頃であり、景観に魅せられたとともに、歴史に触れることもできた。

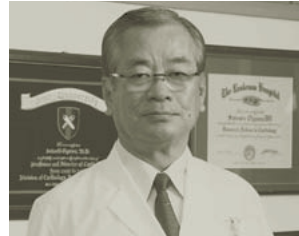


●市内観光では仙台名物牛タンも堪能

夕食は洋食ディナー。車中では、同じ地区の施設とはいえ、互いに遠慮がちであったが、夕食時には、打ち解けて有意義な時間を過ごせた。施設の交流の場として職員旅行は有効な手段であり、来年度はもっとたくさん職員に参加いただけるよう企画を考えたい。(事務局)

ペースをご用意するとともに、プライベートとセキュリティに配慮いたしました。最上階一階のレストランからは、東京タワーと東京スカイツリーが目の前に広がる、素晴らしい眺望が楽しめます。また、港区三田地域の病院としては初の非常用電源設備も整備しました。今後、がん診療における基幹病院として、また地域の中核病院として、同じ港区にある山王病院をはじめとするグループの関連施設とも連携しながら、良質な医療と温かいサービスをご提供することで、安心してご利用いただける病院をめざしてまいります。

小川聡病院長からのメッセージ



Profile 慶應義塾大学卒、医学博士、慶應義塾大学名誉教授、日本循環器学会前理事長、日本心臓病学会元理事長、日本心電学会元理事長、学術集會会会長、第75回日本循環器学会、第51回日本心臓病学会、第23回日本心電学会、第23回日本不整脈学会、第12回日本心不全学会

平成二二年に病院長として着任以来、三田病院を日本有数の病院にすべく、職員一同頑張つてまいりました。当院では、年間三千件以上の全身麻酔手術を実施していますが、耳鼻咽喉科の声帯ポリップ、

脊椎脊髄センターの脊柱管狭窄症、頭頸部腫瘍センターの頭頸部腫瘍が全国トップテンに入るなど、各診療部門の医療実績は全国トップクラスになりました。当院が日本有数の病院になるのもそう遠くはないと確信しておりますが、新病院開設をもつていよいよそれが現実のものとなります。私が専門とする心臓病分野でも、循環器内科に加えて心臓外科と血管外科を新設し、現在「心臓血管センター」として手術前後の管理や救急医療にも対応しています。

昨年、第七五回日本循環器学会総会・学術集會を、会長として開催いたしました。当初三月一八日から開催を予定していたものの、東日本大震災が発生し、被災者の救援活動を最優先するため急遽中止いたしました。しかし、将来の医療を担う若手医師やコメディカルを育成するという日本循環器学会の使命を思い、会期と規模を縮小し八月に再開したところ、約一万人の方々に参加され、盛会裏に終了することができました。若い会員によるハイレベルな研究成果の発表や、白熱した議論が交わされた学術集會を通じて、こうした若い力が今後の日本の医療の発展に大きく貢献していくであろうことを確信いたしました。

将来、医療福祉の現場で活躍される若い力あふれる皆さんとともに、国際医療福祉大学の理念である「共に生きる社会」をめざし、新生三田病院はチーム医療を実践する医療現場として、さらに地域社会に貢献してまいります。(総務企画課)

附属病院 国際医療福祉大学熱海病院

第五三回 熱海病院院内学術懇話会

当院では院内学術懇話会を定期的に開催し、各部署間の情報交換や各職員の知識と意欲の向上に役立てている。一月二十五日、第五三回目の院内学術懇話会が開催された。

演題は左記の通りで、九六名の職員が参加し、活発な意見交換が行われた。



- 臨床検討会**
 (司会：佐々木哲雄)
 皮膚科教授
 ・集団災害とトリアージ
 原田俊一 (脳神経外科)
 ・腹腔内手術後、CAPD再開例の検討
 木内孝樹、宮下由紀恵
 三浦一陽、栗山学 (泌尿器科)
 羽鳥慎祐 (外科)、鈴木宗光、浅井俊子 (4階病棟)
- 第四八回CPC**
 (司会：栗山学 泌尿器科教授)
 ・六〇年に及ぶ気管支喘息、四〇年に及ぶ糖尿病、心筋梗塞がある八六歳男性例

第一六回 安全管理講習会

一月一六日、当院大会議室にて、第一六回院内安全管理講習会が開催された。

今回の講習会では、一年の締め括りとして、発生したインシデント事例の報告と検証、及び注意喚起を促した。また各部門において、半年や一年といったスパンで安全管理に取り組んできたことを発表した。

演題は左記の通りで、二一八名の病院職員が参加し、安全管理への関心の高さが伺える講習会となった。

- 《演題1》日本における医療事故分析**
 奥津芳人 (院内安全統括管理者)
- 《演題2》当院インシデントレポート分析**
 (平成二三年四月から平成二三年一月まで)
 横山直司 (安全管理室)
- 《演題3》各部署で行なっている安全対策について**
 看護部、薬剤部、放射線室、検査室、リハビリテーション室、ME室、医事課、栄養室
- (総務課 篠原拓真)

山王病院

健康講座を毎月開催しています

山王病院では毎月一回、病院利用者および近隣にお住まいの方向けに健康講座を開催し、安定した参加者の獲得を保っている。季節に合わせた内容や日常生活に密着した身近なテーマに対し、毎回参加者からは積極的な質疑応答をいただき、参加者の健康に対する関心の高さをうかがうことができる。

一月一七日



開催された眼科の健康講座「みた目のアンチエイジング」は、昨年一二月に実施した第一回に引き続き、多くの方にご来場いただき盛況のうちに終わった。眼のアンチエイジングに対する意識が、結果として体全体のアンチエイジングやトラブルの改善につながるという意外性に驚き、眼の健康に関して再認識をされた人も少なくないようであった。

今後も山王病院のスタッフと医療広報企画室が協力し、積極的な運営活動を続けていきたい。

(医療広報企画室 渡辺裕美子)

臨床医学研究センター (千葉地区)

化学療法研究所附属病院 第三回自治会意見交換会を行った

一月三日、近隣住民を代表し、八自治体一四名の方にご参加いただき、第三回自治会意見交換会を開催した。

今年には病院職員を含め、八人ずつ四つのグループに分かれて、「けんこう教室への要望」「地域密着型病院として期待すること」の二つのテーマについて、グループ討議を行った。その結果、今後もけんこう教室を続けてほしいという意見と共に、市川市国府台地区の高齢化率約二三％という数字を受け、地域の高齢化に対応できる体制づくりを求める声が多く上がった。グループに分かれたことにより話しやすい雰囲気を作ることができ、たくさんのご意見や情報を得られ、新たに課題を見出すことができた。来年の意見交換会では、今回出された課題について良いご報告ができるよう、これから対応していく予定である。



今後もこのような機会を作り、地域のニーズに応える病院として努力してまいります。

(総務人事課 佐藤亜希子)

臨床医学研究センター (九州地区)

高木病院 心臓血管外科の診療を再開

循環器センターでは、平成二三年七月より世界的に著名な渡邊剛教授 (本学客員教授) 率いる金沢大学心臓・総合外科より常勤医師二名が着任し、心臓血管外科の診療を再開。渡邊教授が定期的に執刀する体制が整い、診療再開から約一か月後の八月六日には第一例目の心臓手術を行った。

すでに、狭心症などの虚血性心疾患の全例で人工心臓を用いない冠動脈バイパス術 (オプポンプ手術)、心臓弁膜症では弁置換術または弁形成術など、計一五例の心臓手術 (一月七日現在) を終えており、検査から治療まで体への負担が軽い「優しい医療」を目指し、すべての患者さんに確実に安全な医療を提供できるよう努めている。



循環器内科と心臓血管外科、各診療科の連携により、多くの医療スタッフが一人の患者さんに関わる「患者のためのチーム医療」を写真で、入院から手術・術後、退院まで早期回復や再発予防をサポートする。

(広報室 関屋真由美)

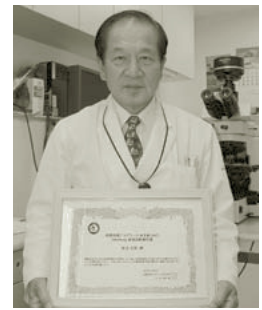
臨床医学研究センター (九州地区)

福岡山王病院 恒吉正澄・病理部長・検査部長 Silverberg 病理診断教育賞受賞

この賞は、日本病理学会の関連団体、国際病理アカデミー日本支部 (IAP) が創設したもので、一月一九日のIAP創立五〇周年記念式典で授与された。

恒吉部長は四一年間病理学の道を歩み、約一九年間の九州大学医学部での教授時代を経て、二〇〇九年四月から当院病理診断科の病理部長・検査部長、本学大学院教授を併任している。

後進の育成と世界トップレベルの多数の研究論文の実績が高く評価され、今回の受賞となった。



病理診断医は臨床検査技師などと協力して、内視鏡の際に病変から採取する病理組織標本をもとに顕微鏡の観察で確定診断を行う「生検および手術材料の組織診断」、手術中に病変の良悪性の判別等を調べる乳がんなどの「術中迅速診断」などを行う。恒吉部長をトップとする当院の病理診断科は、前職の九大形態機能病理学の協力を得て、現在年間五千件もの病理診断を担当しており、診断の質の高さを誇っている。

(広報室 山田久美)

臨床医学研究センター (栃木地区)

おおたわら風花苑 潤いのある生活を…

おおたわら風花苑では、入居者様に日々潤いのある生活を感じて頂くために、入居者様のご希望やご意見を取り入れながら様々な企画を催している。

特に人気があるのは、身体機能維持を兼ねたカラオケ、うどん作り、ボーリング、書道教室である。

カラオケは童謡から歌謡曲まで幅広く皆で楽しめる至福のひとつとなり、うどん作りは昔作った経験を思い出しながら、足で踏んで作ったうどんを味わって楽しんでいる。

その他、四季折々の季節感と地域で暮らしている実感をいつまでも感じ取って頂くために、地域のお祭りなどの行事を見学して、地域との交流を深めながら、生き生きとした潤いある生活が送れるよう努めている。



足踏みでコンを出すうどん作り

●声を出すカラオケ

(施設長 高野清志)

臨床医学研究センター (東京地区)

新宿げやき園 新しい年を迎えて

開設以来四回目の新年を迎え、新宿区における高齢者障害者を支援する福祉施設として当施設の位置づけは確かなものになりつつある。今年も、当施設のスペースを利用する団体や、利用者・職員を対象とする様々な調査研究に協力しながら、プラスの知名度アップに努めたい。

また、四年目に入り、卒業後すぐに入職した介護職たちの知識・技能は向上し、頼もしく成長しつつある。これらの介護職を支えながら、看護、リハビリ、厨房、清掃、運転、事務職一同、利用者のニーズに柔軟に応じられるよう、これまで以上にサービスの質を見守っていききたい。

年末には利用者のご家族から寄贈された白と柿で、恒例の餅つきを楽しみ、明けて七日には区民ボランティアによる獅子舞と職員による吹奏楽団 (けやきカンタービレ) の演奏で新年を祝った。当施設が地域社会の豊かさに貢献できることを嬉しく思います。



ボランティアによる獅子舞

●毎年駆けつけてくれる放駒部屋の力士たち

(施設長 杉原素子)

今回は、本学大学院医療福祉学研究所修士課程・保健医療学専攻・ナースプラクティショナー(NP)養成分野の第一期生、福永ヒトミさんから

「ご寄稿いただきました。福永さんをはじめ、昨年三月に修了した第一期生の六名は見事全員NP資格認定試験に合格し、それぞれの現場で活躍しています。」

最終的に、患者さんへ選ばれた特定看護師に

日本医科大学武蔵小杉病院 特定看護師(仮称) 福永ヒトミ



皆さんはじめまして。私は、昨年の三月にNP養成分野の一期生、特定看護師(仮称)として誕生し、現在大学病院で勤務しております。

本大学院への入学のきっかけは、三年前の病院内フィジカルアセスメント海外研修でした。そこでNPから直接指導を受けたのがきっかけでした。日本でもこんな風に看護師が診察・診断・治療・処方ができたら看護師としての責任は重くなるが、やりがいや地位は変わってくるのでは、と思いました。今まで、NPになりたいと思っ

た人は、全て海外に行き資格を得ていました。それが、日本でできる。東京では、本大学院が初めてNPの養成課程として学生を募集すると聞き、すぐに受験しました。

入学時より、3Pといわれるフィジカルアセスメント、病態生理学、薬理学中心の教育を受けました。私が受けてきた看護基礎教育と、その後受けた研修や経験だけでは、薬理学は特に苦労しました。しかし、学び直すことで医師の医学的判断の過程を理解することに近づけたのではないかと思います。

その結果、患者の状態から臨床推論し、必要な医療的処置の選択などが少しずつ理解できまわりました。まだまだ施行事業として歩き始めたばかりの特定看護師(仮称)ですが、患者さんにとって看護師は何かできるか、患者の擁護的代弁者、患者の本心、患者さんは何をしたいのか、自分の治療をどう考えているのか、患者さんとの会話や行動、アセスメントの中から異常の早期発見、早目の治療が対処できるように自分自身の医学的知識・技術を深めて行くことが大切だと痛感しています。

これからの課題として

- ①他職種と連携を強化していく
- ②看護師の知識・技術を上げていく
- ③患者サービス(待ち時間の短縮、効率化)
- ④将来的には地域との連携(在宅)へ繋いでいく

以上を実施していくことが、効率的に質の高い看護・医療の提供ができ、最終的には患者の安心と安全の医療の確保に繋がるとはならないかと思えます。最後にNP養成分野を修了し、他五名の級友と共に新職種として活動できていることに感謝しております。

留学生紹介コーナー

一二月六日、年末恒例の国際交流親善パーティが大田原キャンパスで開催されました。外国人が日本の着物を着るイベントがあり、大いに盛り上がりました。今号は、パーティに参加した留学生にお話を伺いました。(13ページに関連記事)

理学療法学科四年
ティティ・ファデラーさん
(インドネシア)

インドネシアのスマトラ島のパダンという街の出身です。海がとてもきれいな街です。パダンの人はとても開放的で外国からのお客様もすぐに親しくなれます。みなさんぜひパダンにいらしてください。

今学期の四年生ですが、振り返ってみるとあつと言わぬ四年間でした。大学では、学部の友達はじめ学科の先生方また地域の方々などたくさんのお出合いがあり、とても充実した学生生活を送ることができました。

大学の四年間は苦しいこともたくさんありました。初めのうちは日本語もよく分からず、授業についていくのも大変でした。でも、あきらめずがんばり続けることによって、必ず道は開けます。留学生のみならず、学生時代は本当に貴重です。毎日を楽しく送ってください。

大学卒業後は、大学院でさらに知識を深めたいと思っています。そして、将来帰国して、インドネシアのリハビリテーション分野のリーダーとして活躍できればと思っています。残り少ない学生生活ですが、私を見かけたらずい声をかけてください。

医療経営管理学科四年
スレスタ・スニティさん
(ネパール)

カトマンズの出身です。カトマンズには、仏教やヒンズー教などの寺院がたくさんあります。お祭りもたくさんあります。世界遺産もあります。とてもきれいな街です。そんな街で、みんなが楽しく暮らしています。

留学生生活で、初めに一番困ったことは日本語がよくわからなかったことです。でも、友達が出てくださる日本語を使うようになってからは、少しずつコミュニケーションもとることができるようになりました。

私も今学期の四年生です。留学生は自分の国を遠く離れてつらいこともたくさんあると思います。でも、あきらめずにがんばれば、きっと夢はかないます。学生時代は、二度と戻らない貴重な時間です。毎日楽しく、充実した時間を過ごしてください。

大学卒業後は、一旦ネパールに帰国する予定です。その後、オーストラリアの大学院に進学しようと思っています。



●着物が似合う
ティティさん(左)とスニティさん(右)

国際医療福祉大学大学院 2012年度 入学生募集中

これから出願できる分野も数多くありますので、さらなるレベルアップをめざす医療・福祉職の方々ぜひお問い合わせください。(学内推薦入試制度あり)

12月3日、修士課程・助産学分野の第2回オープンキャンパスが大田原キャンパスで開催されました。朝からあいにくの雨模様にも関わらず、本分野への入学を希望する6名が参加しました。実際のキャンパスでのカリキュラム説明、教員や在学生との交流、個別相談などは学びの環境を知る絶好の機会となりました。



●昼食はレストランオープでの立食ビュッフェ

本年4月より、薬学研究科 博士課程(4年制)が開設されます。

3月に6年制学部から最初の卒業生が誕生するのを受けての開設であり、薬物治療学に精通した高度な臨床薬剤師、薬学研究者の育成をめざします。

夜間に学べる医療福祉関係者のための生涯学習コース
乃木坂スクール 開講中

医療福祉の仕事に関わりがあり、ある程度の専門知識を持っていれば誰でも受講可能です。受講会場は東京青山キャンパスを基本とし、大田原・小田原・福岡天神・大川の各キャンパスで遠隔授業で受講できるコースもあります。



学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中



●介護福祉士受験講座2012 実技試験対策 ●トップクラス講義 北島政樹国際医療福祉大学学長 ●自立支援ケアマネジメント・自立支援介護

- 主な配信番組
- 大学授業・副教材 教育学、国際医療福祉論、ボランティア論、生命倫理、医学・医療史、健康科学理論、公衆衛生学、トップクラス講義、関連職種連携論、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動シリーズ、産業看護の基礎、視能訓練学I、等
 - 医療・健康 医心伝心、ボイス～医療の扉をノックする～、脳科学と再生医療・遺伝子治療の最前線、創作劇「空白のカルテ」、放射線と人体への影響
 - 介護・福祉 役に立つ福祉用具の今日・明日・未来、床ずれの防止とケア～基礎から用具まで～、地域包括ケアの理念と現実的展開の方向性
 - 資格取得受験講座 介護福祉士受験講座2012
 - 病院・施設実務 自立支援ケアマネジメント・自立支援介護、看護生涯学習講座、ケアマネジメント・認知症ケア・介護予防のための講座会
 - リハビリテーションアワー 第46回日本理学療法学会(宮崎)、2011作業療法フォーラム、作業療法士現職者共通研修
 - 厚生労働省課長会議 全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議(平成24年2月23日開催予定) ※無料配信
- お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係(月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com HP <http://www.ch774.com> 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト OPEN! 「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

広報誌 IUHW 88号

発行：学校法人 国際医療福祉大学
[大田原キャンパス] 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
[小田原キャンパス]
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500
[福岡天神キャンパス]
福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 ☎092-739-4321

[大川キャンパス]
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
[東京事務所] 広報室
東京都港区南青山1-3-3 ☎03-5775-2505
編集：東京事務所広報室
デザイン：野佐デザイン

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
<http://www.iuhw.ac.jp/>



先輩に聞く 国家試験受験の傾向と対策

8回目となる「学生投稿ページ」は、好評につきページを裏表紙に移してフルカラーで華やかに再スタートします。

そのグレードアップ第1弾として、今回は「学生が学生に取材する」をコンセプトに、後輩が先輩にインタビュー。テーマは「国家試験対策」です。



School of Health Sciences / Department of Speech and Hearing Sciences



回答者 4年生

二階堂曜さん(左)
栃木県立黒磯高校出身

廣田由香さん(右)
栃木県立矢板東高校出身

保健医療学部 言語聴覚学科

インタビュー 2011年12月22日

言語聴覚士国家試験

2012年2月18日実施



インタビュアー 3年生

菊池詩織さん(左)
茨城県・水戸短期大学付属高校出身

熊谷あずささん(右)
新潟県・新潟明訓高校出身

Q 国家試験の勉強はいつ頃から始めたらいいですか？

A 二階堂 3年生の夏から模擬試験が始まり、後期試験後、本格的に始まります。

Q 臨床実習や就職活動と両立できますか？

A 廣田 実習と国家試験の勉強って別物ではありません。実習中分からないことが溢れ出てきた時、「解剖学で習ったかも…」「音響学で聞いたことあるかも…」の連続でした(涙)。1年生から真面目に勉強しておけばよかったなって後悔(涙)。
二階堂 実習に行く前に国家試験勉強を進めて準備しておく、知識が繋がりがやすくなるし、実習中の理解度が変わってきます。今からでもこつこつと進めておくと、実習中色々役立つよ。

Q 具体的にどう進めたらいいですか？

A 二階堂 まずは過去の国家試験問題から「これがよく出ているな」と出題傾向を掴むこと。傾向を掴んだら科目の重要なポイントを授業のノートや教科書を中心にまとめたノートを作成します(ST学科通称マイテキスト!!)。
廣田 夏には対策講義、1年中繰り返し模試があるので、そこから新たな知識やよく分からないことを掘り下げて勉強を深めていきます。

Q 覚えるコツを教えてください

A 廣田 友達同士で問題を出し合うことです。お互いが得意なことを教え合うこともできるから、時間を決めてやっています。

Q くじけそうになる時のカンフル剤は？

A 廣田 私は姉にももらったお守りをいつも持ち歩いています。

二階堂 私は同じ趣味のメンバーでお揃いのパーカーを作って、気合いを入れて模試や対策講義に出たりしました(笑)。ただ、黒いパーカーだったので、前から見るとぞろ～って真っ黒な集団が座っているんです。とある先生には「一体どうしたんだ?!」と驚かれちゃいました(笑)。

Q 最後まで乗り切れるか不安です

A 廣田 大丈夫!! アドバイザーの先生が定期的に面談してくれますし、一人ひとりにアドバイスをくれますので、先生を信じて勉強を進めることだと思います。

Q 最後に後輩に一言お願いします

A 二階堂 自分は自分。周囲を見つとついそわそわしたり、不安になったりするけど、自分自身を信じること。

School of Health Sciences / Department of Orthoptics and Visual Sciences



回答者 4年生

小林美春さん(左)
栃木県・文星女子高校出身

高山安祐美さん(右)
栃木県立宇都宮女子高校出身

保健医療学部 視機能療法学科

インタビュー 2011年12月22日

視能訓練士国家試験

2012年2月24日実施



インタビュアー 3年生

鈴木美香さん(左)
栃木県立栃木翔南高校出身

佐藤麗さん(右)
宮城県仙台南高校出身

Q 国家試験に向けての勉強はいつから？

A 小林 実際に始めたのは後期臨床実習後ですが、夏休みあたりから少しずつ始めました。

Q 勉強法とか覚えるコツとかありますか？

A 高山 とりあえず、教科書の『視能学』をひたすら勉強しています。解剖が重要なので、状況をイメージしながら覚えるといい。それと授業中には絶対出てこない『視能学』の後ろの方の遺伝子とか救急救命とかも出るからね。
小林 国試は5択問題。消去法でいっても残り2つのうち1つに絞れない状況が多いから、絞りきれぬ勉強しておくといと先生に言われています。

Q 勉強の合間のリフレッシュ方法は？

A 小林 友だちとのおしゃべりと寝ること。私は寝るとストレスを忘れるタイプみたいです。
高山 私も友だちとのおしゃべり。勉強も友だちといっしょにするようにしています。
小林 集中力が切れないように勉強も休憩も時間を決めてやるのがいいかな。

Q 1日の生活のリズムは？

A 小林 もう授業はない。卒研までは学校にこもって駆けずり回ってたけど、今は個人の勉強。睡眠は最低6時間はとっています。

Q ノートをまとめたりしてるんですか？

A 高山 最初、一つ一つきれいにまとめようとして挫折しました。過去問を解いて、わからない単語が出てきたらそれについて書いて、そこから派生する単語が出てきたら書いて。それでその先が出てこなくなったら次の問題に行く。そうやってつな

げていくと広くカバーできるかなと思ってやっています。
小林 わたしは「まとめない派」だから、ひたすら書いて読んで。わからないことがあったらすぐ調べて、また書いて眺めて。自分で調べたことは覚えてるから。
高山 ひたすら『視能学』を読んで書いている人が多いかもしれないね。

Q 試験まであと2カ月。今の気持ちは？

A 小林 さすがにアセってきました。先生も言ってたけど、死に物狂いでやらないとダメだ。もっと早くやっておけばよかった。
高山 言える言える!

PS.先輩の声を聞いた感想は？

鈴木 ちょっと不安になりました。もっとがんばらなきゃなって。
佐藤 国試ってもっと先かと思ってたけど、ちゃんと考えなきゃいけないなと思った。

